

成程報告書要約

助成番号	第168-8号
助成形態	誰いな場所の目見な人・見えぬ人に対する種支援
助成期間	2022年 4月 四 2023年 2月
所属	金沢工業大学
氏名	松井ひお

キーワード 視覚障害ナビゲーション装置 音声案内スマートフォン

研究目的 目見な人・見えぬ人の種解として、歩道の点字ブロックやスマホのGPS機能を用いた誘導ある。また、同援者周囲の人を導いての種もあるが、目的を達成するまで必ずしもそのような条件整或、周囲言能いな状況生ることある。このような状況の種支援実現は、目見な人・見えぬ人を目的地まで安全に導くことが可能なる。

研究手順 視覚障害者によく利用する施設おて、点字ブロック及び点字ブロックアプリ用意し、以下の手順で実実験を行なす。

- ①点字ブロックの概観説明
- ②点字ブロックアプリのインストール
- ③新刊案内説明
- ④実験準備
- ⑤実験条件のアンケート回答
- ⑥アンケート回収

新型コロナの影響あり、当初予定していた高知・岐阜の実験の機会を失ってしまいましたが、川崎・大阪・高松で計7名の視覚障害当事者協力を得て実験馬鏡を行った。参加した当事者の方からは概好意的な評価を受け、特に音楽内蔵のモバイルタイプの機器などの情報は得ると感じている当事者が多く、タミカ馬鏡の乗り場などの情報は得ると考えている当事者が多いことが示唆された。

モバイル型ブロックシステムは一般の人にも案内情報として使えるものではあるが、視覚障害者役立ちものであるとの認識が広まることが重要である。アプリの使用感も体験してみないとわからない。普段スマートフォンは使っているが何をかまうか分からない。なぜなら、なぜかカメラの向きをどうコントロールするかは慣れが必要である。モバイル型ブロックを普及させるためにはスマートフォン操作が極力簡単で

直感的である必要がある。今回の実験ではモバイル型ブロックが設置されていることは方向性も、必要な情報を得る上で十分有効であることが理解できた。カメラの向き、歩スピードなどはある程度慣れが必要で、場合によっては健常者からアドバイスを受けながら歩くことも必要であることがわかった。カメラからの情報は注意の向きと周囲の環境に注意の向きを伝えることができ、適宜サインをとると安全を確保した上で情報を取るなどの工夫が必要である。

その他、必要と思われる情報もテキストが長すぎると覚えがたい、方向を入れてほしいなどの情報提供の方法も課題あることがわかった。同スマートフォンでも音声の差と操作の違いもあり、同場所でも昼夜の光関係誤認識をするなど課題があることもわかった。視覚障害者の単独移動はアプリで全解決するわけでは無い。今後さら

に移動の際の課題可決のための研究を積む必要がある。

